

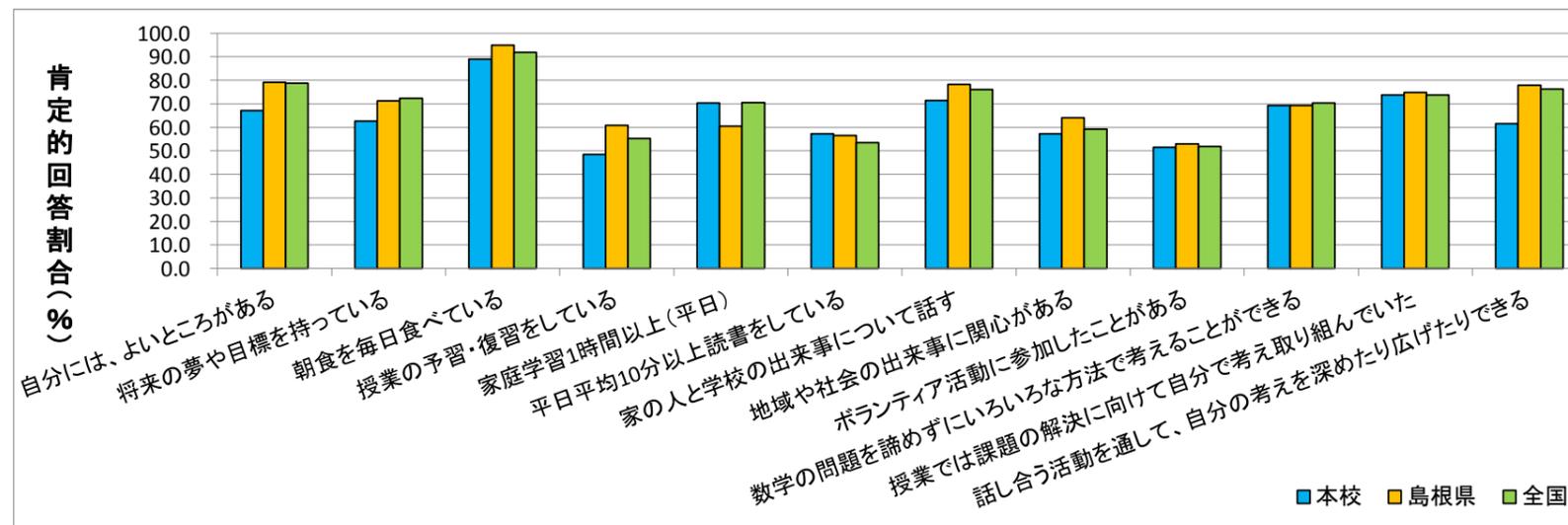
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
国語	A (基礎)	○「読むこと」は全国の平均正答率より高く、古典の理解もおおむねよい。 ●「話す・聞く」の領域での正答率が低く、実生活につながる言語の活用能力が低い。	・対話や質問の仕方等、実生活につながるような場面を課題として設定し、「話す・聞く」学習の充実を図る。 ・漢字や語句を的確に用いた短文づくり等を各場面を増やす。
	B (活用)	●記述問題に対する無回答率が高く、グラフが示す事実を読み取る力が弱い。	・文章を読み取り、自分の考えを論理的に書く機会を増やす。 ・グラフや表からどんなことがわかるのか、読み取り方やポイントが理解できるように工夫する。
数学	A (基礎)	○「図形」と「資料の活用」の領域の正答率が島根県、全国の平均正答率を上回っている。 ●「数と式」「関数」の領域での正答率が低めで、特に複雑な計算になると無解答率が高くなる。	・計算練習は引き続き力を入れていくが、基本的なものばかりでなく少し複雑な計算も増やす。 ・関数の数量の変化や式の形、グラフの様子を生活の中の実体験と結び付けて捉えられるように題材を工夫する。
	B (活用)	○全体の正答率が島根県の平均正答率を上回っている。 ●領域ごとに見た正答率は全国平均と大差ないが、無解答率は総じて高く、特に記述式の問題の無解答率が極端に高い。	・説明を求められたり、考えを表現したりする問題に対して抵抗感を持っている様子が視えるので、授業の中で考えを深める時間を確保したり、表現したりする機会を増やす。
理科		○主として「活用」に関する問題は正答率が比較的高く、評価の観点として「観察・実験の技能」に強みがある。 ●主として「知識」に関する問題は正答率が比較的低く、評価の観点として「自然現象についての知識・理解」に弱みがある。	・授業の中で、問題演習をする時間を増やす。 ・授業でお互いに分からないところを教えあう時間を増やす。

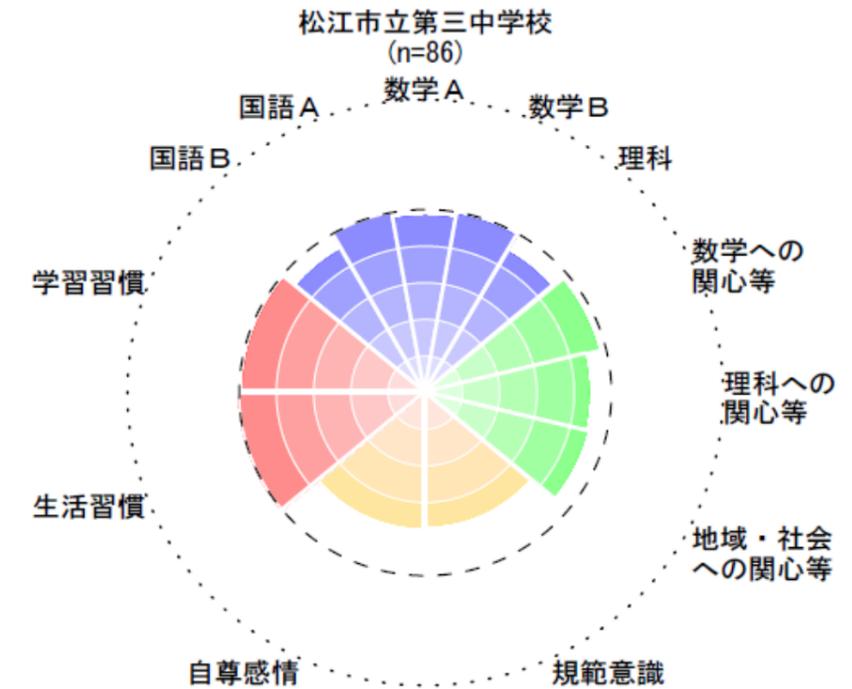
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
		○毎日同じくらいの時刻に寝たり、起きたりする等規則正しい生活を送ることができる生徒が多く、学校の宿題を提出している割合が高い。 ●自分によいところがあると感じたり、先生が自分のよいところを認めてくれたりしていると思う生徒の割合が低い。	・生徒のよいところを見つけて、しっかりほめる機会をさらに増やす。 ・地域のことを調べたり、関わったりする機会が少ないと感じている生徒が多いので、地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を充実させていく。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・自学ノートを活用した家庭学習の習慣化を図るとともに、国語・数学・英語の課題テストへの取組を働きかけたり、各教科でのふりかえりテストを実施したりするなど、日々の積み上げを大切に指導を行う。  
・総合的な学習や地域の行事において地域の方と関わる機会を増やすことで自他のよさを発見し、将来への目標がもてるようにする。

【参考】

		○平均正答率 (%)			
		本校	松江市	島根県	全国
国語	A	76	76	76	76.1
	B	57	61	61	61.2
数学	A	64	65	64	66.1
	B	46	46	45	46.9
理科		62	65	66	66.1

受検者数 86人  
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。